

東京大学全学研究科等横断型教育プログラム

日本・アジア学

Japan-Asian Studies Program

Academic Year 2013-2014

参加資格
Eligibility

東京大学の大学院生
(所属研究科・教育部は問いません)
All University of Tokyo students
(Regardless of graduate school or educational department)

修了要件
Completion
criteria

12単位
(言語科目群は4単位まで)
12 credits
(No more than four from language-related disciplines)

修了証
Certificate
of Program
Completion

東京大学が授与する
正式な修了証
Certificate formally awarded
by University of Tokyo

「日本・アジア学」教育プログラムは、
文系・理系を問わず、激動するアジアを広く、
そして深く知ることができるカリキュラムです。

アジアを生き抜くために。

Introduction



「日本・アジア学」教育プログラムとは

日本を含むアジアについての教育活動を、部局と分野を超えて新たに体系化・総合化したもので、意欲ある大学院学生のみなさんが、所属する研究科・教育部局固有の教育カリキュラムに加えて履修し、修了するものです。

本プログラムは、総合科目群と言語科目群に大別されます。総合科目群は、本プログラムの中核をなすもので、分野横断・部局横断のカリキュラムを通じて、日本を含むアジアについて理解を深めるものです。各研究科・教育部において正規課程の科目として実施される授業がこれに該当します。総論、社会・文化論、社会技術論、自然環境論、健康論、情報論、特論からなります。また言語科目群は、教養学部あるいは文学部の学部後期課程(3-4年生)で開講される外国語科目のうち日本・アジアと関わるものを、意欲ある大学院学生が履修することを奨励するものです。

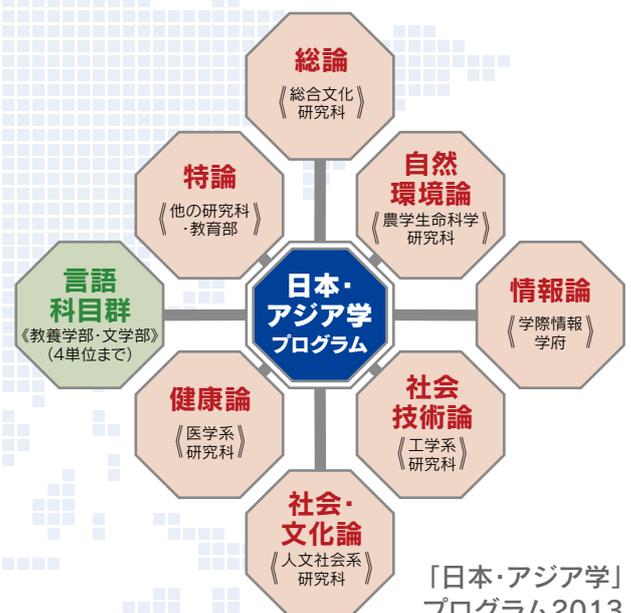
総合科目群のみから、あるいは言語科目群と総合科目群の合計で12単位以上を取得した場合に、プログラムを修了したと認定し、修了証を発行します。ただし、言語科目群から取得した単位を、修了要件の一部とする場合には、4単位を上限とします。

Japan-Asian Studies Program

The Japan-Asian Studies Program is an educational undertaking that represents a new systemization and a newly comprehensive approach to Asia, including Japan, that transcends departments and fields. It can be participated in and completed by all graduate students interested in it as a supplement to the specific educational curriculum of whatever graduate school or faculty department they belong to.

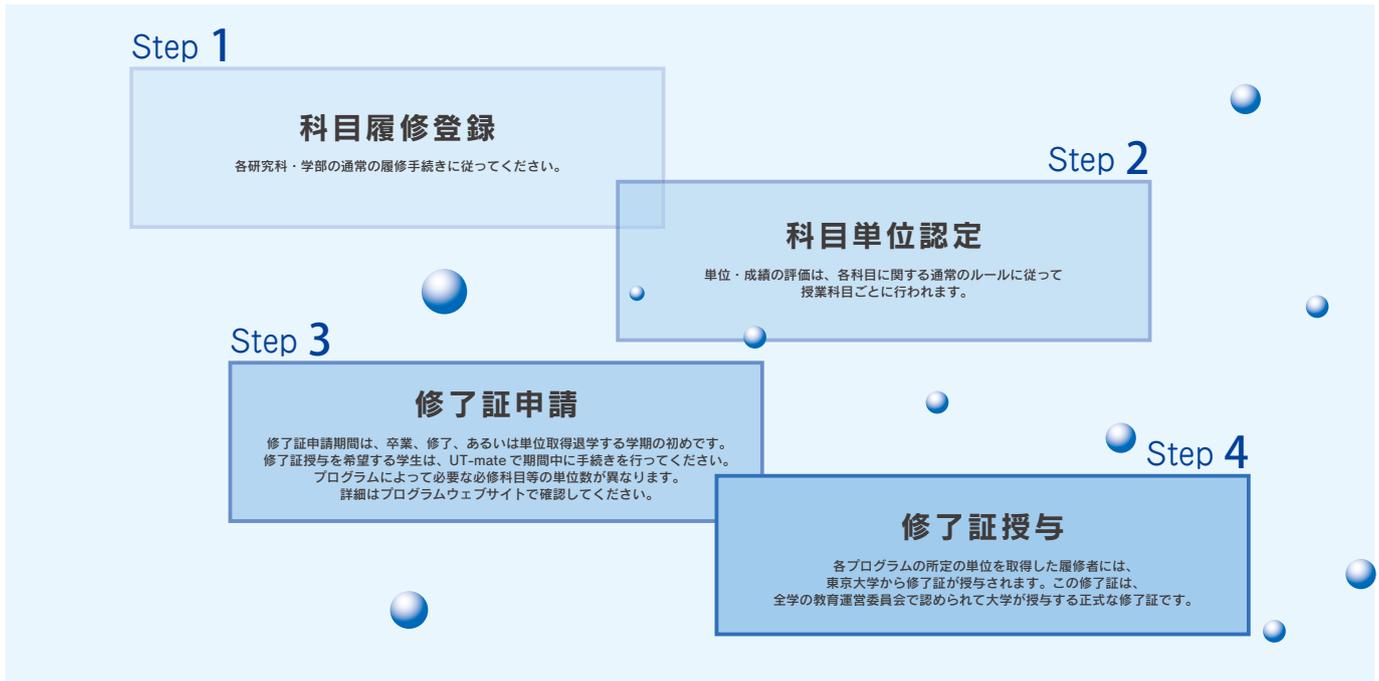
The program can be broadly divided into general and language-related subjects. The general subjects form the core of the program, and offer a deeper understanding of Asia, including Japan, by way of an interdisciplinary, interdepartmental curriculum. Classes held by each graduate school and faculty as part of its standard curriculum come under the program, which comprises Liberal Arts and Sciences, Society and Culture, Social Technology, Natural Environment, Health Sciences, Information Sciences, and Advanced Studies. Furthermore, when it comes to language-related disciplines, students who wish to do so are encouraged to take the Asian foreign language courses offered in the Undergraduate course senior division (third and fourth year) curriculum of the College of Arts and Sciences and Faculty of Letters.

In the case of a total of 12 or more credits having been gained from general theory-related disciplines only or from language-related disciplines and general theory-related disciplines, recognition will be given of course completion, and a certificate of completion will be issued. However, no more than four credits may be gained from language-related disciplines for the purposes of satisfying completion requirements.



「日本・アジア学」
プログラム2013

Japan-Asian
Studies Program 2013



1 科目履修方法 1. Program participation: Enrolling each course

東京大学のすべての大学院研究科・教育部に所属している学生が履修できます。修了証の取得を目的とした履修だけでなく、個々の科目のみを履修することも歓迎します。

履修にあたっては、UT-mate上で登録を行ってください。ただし、医学系研究科など、UT-mateに対応していない研究科・教育部局の学生は教務課にて手続きを行ってください。

また、履修する科目が所属している研究科・教育部の科目となっていない場合には「他研究科(教育部)履修」の手続きを、また言語科目群の履修は「学部科目履修」の手続きをおこなってください。

All students in the University of Tokyo's graduate schools may take part in the program. Students who take part not for the purpose of gaining a certificate of completion but only for certain courses are also welcome.

To enroll, please follow the prescribed enrolment procedures of your graduate school. In case the course you are taking is not part of the graduate school to which you belong, please complete the "Other graduate school enrolment" procedures, or, for the language-related disciplines, the "Undergraduate course enrolment" procedures.

2 プログラムへの参加 2. Program participation: Enrolling the program

「日本・アジア学」プログラムに参加しようと考えている方は、下記のホームページで連絡先等の登録を行ってください。事務局から、適宜、連絡を受けることができます。

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

All students who wish to receive the Certificate of Completion are required to register at the following URL. The Managing Committee or the network office will hereafter provide you with necessary information.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6727>

3 修了 3. Completion

修了要件である12単位(言語科目群からは4単位まで)を満たしたものは、課程修了前(単位取得満期退学含む)にUT-Mateにて手続きを行ってください。手続きの時期等は、各研究科の掲示板ならびにASNETのホームページにて通知されます。ただし、所属部局がUT-Mateに対応していない場合は、所属部局の大学院係・教務係に手続きを聞いてください。

Please submit Certificate Request through UT-Mate website, if you are able to use the UT-Mate system. Otherwise, please ask the network office. [Note: UT-Mate is at present available only in Japanese. Please contact the office if you cannot read Japanese].

4 注意事項 4. Important points.

- 最新情報は常にホームページで確認してください。
- 何かわからないことがあれば、お気軽に事務局までご連絡ください。

- >Please check the website regularly for information updates.
- >Please direct any inquiries to the network office.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

受講生の声

- 受講生／鈴木 啓之
- 所 属／総合文化研究科

「真剣に向き合うとはどういうことか」を学ぶ機会であったと思います。私が受講した「アジア研究のフィールドワーク」は、文字通り身体を動かして学び取る講座でした。フィールドワークといえばペンとノートでひたすら地道に記録を取るのだろうという先入観は完全に崩れ、最新のGPS機器やソフトを活用した演習、さまざまな先生方による対話型のレクチャーが刺激的でした。また、最後のフィールド実習では、人やモノと全身全霊で対話しながら問いを建てていく苦しさも経験しました。偏見や先入観のもとだと否定的に考えてきた「(自分にとっての)当たり前」という感覚が、この講座を通じて時に最も有益な羅針盤になることに気づかされたと思います。



研究で訪れたヨルダンの首都アンマンにて

- 受講生／新谷 春乃
- 所 属／総合文化研究科

私は、総合文化研究科の地域文化研究専攻の修士課程に在籍しつつ、2011年から2012年にかけて「日本・アジア学」のコースを履修しました。「日本・アジア学」は、アジアという広がりを経験を様々な専門分野を通して学際的に学ぶことができるコースです。私自身、専門である文献資料を主に対象としたカンボジア研究という枠組みを超えて、講義を履修してきました。「アジア研究のフィールドワーク」では、座学だけではなく多様な専門の学生や留学生と共にベトナムで研修することを通じ、現場を見る目を養うことができました。「第二次世界大戦後の日本のアジア認識」では、日本人のアジアへのまなざしの歴史の変遷を追うことで、アジア研究の背後にある研究者の意識や、研究の時代性を学ぶことができました。アジアという視点は、今日本で生きる私たちにとって欠かすことのできないものです。自らの専門を超え、アジアを学ぶ自らも相対化しつつ、学際的にアジアを理解する力が今求められていると思います。



カンボジアでの聞き取り調査にて

- 受講生／张予思
- 所 属／学际情报学府 学际情报学专业

不论是研究题目、工作志向及个人兴趣，“日本・亚洲学”都是契合我的需要的一门讲座。我选修了包括亚洲经济、亚洲自然共生论、中东研究、民俗学、地域文化研究特别讲义（田间调查）等课程，还获得了去中国海南岛黎族地区及越南进行田间调查的宝贵体验。

“日本・亚洲学”首先让我在自己感兴趣的题目下体验到了真正的“跨学科”。在各学科教授的指导下，与各国的同学一起就亚洲的问题学习讨论、进行田间调查，更是难得的经历。

并且，“日本・亚洲学”让我更加理解亚洲，也让我深刻的感受到，就算是自己的祖国，我的了解也远远不够。而在此接触到的亚洲自然环境、乡村发展等议题，则为我指出了一条新鲜且值得追寻的道路。



海南島リー族の村にて

ASNET 講義紹介

- 担当教員／大黒 俊哉 (農学生命科学研究科)
- 講義題目／里山学概論

本講義では、長い間日本人の暮らしの場であった「里山」を対象に、自然と人間のダイナミックな関係の変遷、多様な生きものが暮らせるしくみ、そして里山の将来について、生態学、緑地環境学、農村計画学、社会学など、多様な学問領域からのアプローチによって紐解いてゆき、自然共生社会を拓く「自然との共生の智慧」を皆さんとともに考えていきます。講義だけでなく、里山巡検もあり、「里山のいま」を実感することができます。最終日には国連大学高等研究所で、同大学修士コースの学生やスタッフとともに、里山や自然共生社会をテーマとした学生プレゼンテーションと討論を行う予定です。講義はすべて英語で行いますので、留学生の皆さんの参加をとくに歓迎します。里山の問題を、アジアそしてグローバルな視点から分野や国境を越えて考えてみたい方、是非ご参加下さい！



里山巡検の様子・「森の工房」見学

- 担当教員／池本幸生 (東文研)・卯田宗平 (ASNET)
- 講義題目／中国を見る眼

中国に親しみを感ずる日本人の割合が20%を切った今日、まずは大学教育の現場から日中の相互理解を進める必要があります。本講義では、中国に関わる最新の研究成果を東京大学等の研究者の協力を得ながらオムニバス形式で学ぶものです。

具体的には、中国の農村資源管理や地方財政の現状、工業化、中国語の表現方法、中国の漫画史、中国における隣国日本のイメージ、ノーベル文学賞受賞後の波紋などについて、毎週1つのテーマを取り上げ、講義と議論を通じて理解したいと思います。毎回の講義後には質疑応答の時間もあります。中国がもつ多様性やさまざまな研究アプローチを学びたい学生たちの受講を歓迎します。講義の最終日には東京近郊に見学に行く予定です。

この授業を通じて、中国に関わる最新の研究成果を幅広く理解するとともに、中国と日本の将来を考察できる素養を身につけることを目指したいと思います。



房総半島の漁村での調査結果を報告しあう受講生たち (「アジアのフィールドワーク論」科目)

- 担当教員／赤座英之 (先端研)・河原ノリ工 (先端研)
- 講義題目／アジアでがんを生き延びる



学生と議論するバスカル・リゴティ サノフィ・アベンティス(株)執行役員

高齢化社会に突入していく日本とアジア。がんという共通の克服課題を通して、高齢化、医療格差、社会的正義、死生観、グローバリズムとナショナリズムのねじれ、など今日的な課題が浮かび上がってくる。本講義は、がんを医学はもとより、政治・経済・文化など様々な領域から捉えてみることを通して、外部講師の各分野の第一人者によってそれぞれの専門性のなかから、日本とアジアのありようを読み解く授業である。受講者は、専門分野に引き寄せて各テーマごとに深掘りされていく場所に降りていくことで、自らの研究の相対化に繋がる仕掛けもなっている。

Contents

目次

分野	科目名	担当教員	開講学期	ページ
総論	● 中国を見る眼(地域文化研究特別講義Ⅱ)	池本幸生・卯田宗平	夏	P.06
	● アジアのフィールドワーク論(地域文化研究特別講義Ⅱ)	池本幸生・卯田宗平	夏	P.06
	● アジアでがんを生き延びる(地域文化研究特別講義Ⅱ)	赤座英之 他	夏	P.07
	● アジアでがんを生き延びる(地域文化研究特別講義Ⅱ)	赤座英之 他	冬	P.07
	● 現代中国論-中国人眼里的日本論-(地域文化研究特別講義Ⅱ)	池本幸生・卯田宗平	冬	P.08
	● 現代民俗学の可能性と課題(通文化研究基礎論Ⅰ)	菅豊	夏	P.08
	● 中東の経済発展・政治変動と文化社会変容(通文化研究基礎論Ⅱ)	長澤榮治	夏	P.08
	● 途上国農村経済論(アジア太平洋文化交流論Ⅱ)	高橋昭雄	夏	P.09
	● 途上国農村経済論(アジア太平洋文化交流論Ⅱ)	高橋昭雄	冬	P.09
	● 明治維新时期の日本(アジア太平洋地域文化演習Ⅰ)	三谷博	夏	P.09
	● 明治維新时期の日本Ⅱ(アジア太平洋地域文化演習Ⅰ)	三谷博	冬	P.09
	● 朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治(多元地域協力論Ⅰ)	木宮正史	夏	P.10
	● 人間環境論Ⅱ	永田淳嗣	夏	P.10
	● サステナビリティの戦略Ⅱ	永田淳嗣	冬	P.10
	● 第二次世界大戦後の日本のアジア認識(地域文化研究特殊研究Ⅰ)	古田元夫	冬	P.11
	● 戦後日本社会の形成と変容(アジア太平洋文化交流論Ⅱ)	外村大	冬	P.11
	● 韓国社会論(アジア社会比較発展論Ⅱ)	有田伸	冬	P.11
	● 書き直される中国近現代史(国際社会科学特別講義Ⅳ)	川島真	冬	P.12
社会・文化論	● アジア海域世界と世界史(比較アジア社会文化論演習)	羽田正	通年	P.13
	● 民族誌と歴史(韓国朝鮮言語社会演習)	本田洋	夏	P.13
	● モダニティの民族誌(韓国朝鮮言語社会演習)	本田洋	冬	P.13
社会技術論	● 都市の持続再生学(A)	工学系3専攻	夏	P.14
	● 都市の持続再生学(B)	工学系3専攻	冬	P.14
	● 国際プロジェクトの事例分析特論	堀井秀之	冬	P.14
自然環境論	● 有機農業と持続可能な発展(汎アジア経済論Ⅲ)	池本幸生	夏	P.15
	● アマルティア・センの正義論(汎アジア経済論Ⅳ)	池本幸生	冬	P.15
	● アジアの食と農・環境(農学国際特論Ⅲ/環境政策特別講義)	井上真	集中	P.15
	● 里山学概論	大黒俊哉	夏集中	P.16
	● アジア自然共生論	大黒俊哉	冬集中	P.17
健康論	● 国際地域保健学特論Ⅰ	神馬征峰	夏	P.18
	● 精神保健学Ⅰ	川上憲人	夏	P.19
	● 精神保健学Ⅱ	島津明人	冬	P.19
	● 医療コミュニケーション学講義	木内貴弘	夏	P.20
	● 医療コミュニケーション学実習	木内貴弘	夏	P.21
	● Human EcologyⅠ	渡辺知保	夏	P.22
	● 健康教育学	橋本英樹	冬	P.22
情報論	● Information, Technology, and Society in Asia (ITASIA) 101	松田康博	冬	P.23
	● 文化・人間情報学特論Ⅰ	真鍋祐子	冬	P.23
特論	● 日中関係(アジア経済)	丸川知雄	夏	P.24

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

中国を見る眼 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1320S (修士master) 31D220-1320S (博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	池本幸生(東文研)、卯田宗平 (ASNET) Yukio Ikemoto(Advanced Studies on Asia) and Shuhei Uda(ASNET)	授業時間 Semester/Time	夏学期、木曜日、3限(13:00-14:30) Summer, Thursday (13:00-14:30)
場所 Venue	東洋文化研究所三階大会議室 Meeting Room, 3rd floor, Institute for advanced Studies on Asia, Hongo Campus		
履修上の注意 Important points concerning enrollment	受講者には毎回、A4一枚分の感想・質問文の提出を課す。成績は、授業への参加の積極性によって総合的に評価する。		
授業内容 The contents of a lesson	<p>本講義では、中国に関わる最新の研究成果を多分野の専門家の協力を得ながらオムニバス形式で学ぶ。具体的には、中国の農村資源管理や地方財政、工業化、言葉、漫画史、日本のイメージ、ノーベル文学賞受賞後の波紋などについて、毎週1つのテーマを取り上げ、講義と議論を通じて理解する。</p> <p>この授業を通じて、中国に関わる最新の研究成果を幅広く理解するとともに、中国と日本の将来を考察できる素養を身につけることを目指す。</p>		
	<p>講義日程</p> <p>4月11日／卯田宗平(生態人類学)「序論：中国を理解するコツ」 5月 9日／尾崎文昭(中国近現代文学)「ノーベル文学賞受賞の波紋とその背景」 5月16日／王雪萍(東アジア国際関係)「中国の教育と中国人の日本イメージ」 5月23日／大野公賀(中国近現代文学)「中国漫画史における竹久夢二」 5月30日／前田真砂美(中国語学)「程度を何で表すかー現代中国語の程度副詞」 6月 6日／小野泰教(中国近代思想史)「西洋近代社会をいかに認識するかー清末士大夫の目線から」 6月13日／加島潤(中国経済史)「地方財政から見る中国という国家ー歴史と現状」 6月20日／伊藤亜聖(経済学)「『世界の工場』中国を解剖するー形成・空間・構造・変動ー」 6月27日／山田七絵(農業経済学)「中国における農村資源管理：基層自治組織の役割」 7月 4日／まとめと質疑応答 モテレーター：卯田宗平 7月 上旬／東京郊外の視察</p>		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

アジアのフィールドワーク論 ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1327S (修士master) 31D220-1327S (博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	池本幸生(東文研)、卯田宗平 (ASNET) Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia) and Shuhei Uda (ASNET)	講師陣 Lecturers	梅崎昌裕(医学系研究科：人類生態学) 田所聖志(医学系研究科：文化人類学) 石川正敏(東京成徳大学：情報工学)
場所 Venue	東洋文化研究所三階第一会議室 Meeting room#1, 3rd floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus	授業時間 Semester/Time	夏学期、金曜日、4限(14:50-16:20) Summer, Friday (14:50-16:20)
履修上の注意 Important points concerning enrollment	成績は、授業への参加の積極性、課題発表、レポートによって評価する。		
授業内容 The contents of a lesson	本講義では、アジアを対象としたフィールドワークの成果、インフォーマントとの関係、iPadとFileMakerを利用した野外情報の収集スキル、フィールドワークの経験、仮説の立て方など学ぶ。講義(安全対策や倫理も含む)を行ったあと、日本(房総半島など)やアジアの国(中国、ベトナムなど)で実習を行う予定(実習は自費)。		

アジアでがんを生き延びる ～地域文化研究特別講義Ⅱ～

Surviving Cancer in Asia

科目番号 Course ID Number	31M/D220-1324S 31M/D220-1324W	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	赤座英之(先端研) Hideyuki Akaza (RCAST)	講師陣 Lecturers	赤座英之、河原ノリエ、増井徹、井上肇、堀江重郎、高橋悟(モデレーター)
場 所 Venue	医学部教育研究棟第1セミナー室(2階) Seminar room#1, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus	キーワード Keywords	グローバルヘルスアジェンダ、国際共同治験、超高齢化社会、歴史認識、癌研究国際戦略 Global health agenda, International clinical study, Super aged society, Understanding of history, Strategic investigation on comprehensive cancer network
授業時間 Semester/Time	夏・冬学期、水曜日、6限(18:00-19:30) Summer, Winter, Wednesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	成績は、レポートと授業への参加の積極性によって総合的に評価する。夏(2単位)・冬(2単位)、それぞれ単独で履修も可能。大学院生以外の聴講も可能。(事前登録必要)

授業内容 The contents of a lesson

感染症から非感染症へ疾病構造が変容する中、アジアにおけるがんは急増している。がんという病には、遺伝的素因や生活習慣など、長い時間軸の中で一つのくらしの営みや文化が色濃く影を落としている。これまでアジアは、医療水準、医療者、患者の価値観もまちまちで、データも単純比較できず、連携が難しい地域であった。経済成長著しい一方、未だにこの地域に横たわる、歴史的負債は大きく、グローバルズムとナショナリズムの「ねじれ」が先鋭に浮かび上がる地域である。アジアのがん医療における、新規薬開発や安全かつ有効な治療法の開発などを旨とする「総合癌研究国際戦略推進」寄附研究部門は、その活動の一つとしてがんという共有課題を乗り越えることで、この「ねじれ」を克服していくことを目指し、がんをグローバルヘルスアジェンダにすることなどの政策提言活動を行ってきた。がんは政治、経済、文化など、様々な課題と密接にかかわっている病である。それぞれの領域の第一人者に、アジアのがんに纏わる問いを投げかけ、日本がアジアとどう向き合うべきなのか、対話の回路としての語りを重ねたいと考えている。

Against the backdrop of a global transformation in the structure and nature of disease, with focus shifting from infectious diseases to non-communicable diseases, cancer incidence in Asia is rapidly increasing. Cancer is a pernicious disease that develops over a long period of time, affected by genetic factors and lifestyle choices. It is a disease that casts a long, dark shadow over human culture and activities. To date in Asia there has been great divergence in medical standards, and also in the values of physicians and patients alike. What is more, data from Asian countries is not immediately comparable, making cross-border cooperation and information sharing difficult. While on the one hand Asia is experiencing astonishing economic growth, there are still historical legacies that pervade the region and a stark disjoint between globalism and nationalism can also be perceived. The Department of Strategic Investigation on Comprehensive Cancer Network aims to develop new drug therapies as well as safe and effective methods of treatment for cancer in Asia. The Asia Cancer Forum is based in this department and is engaged in efforts to overcome the regional disjoint in Asia by promoting joint action on common issues. We are accordingly engaged in various policy proposal formulation activities, aimed at achieving the inclusion of cancer on the global health agenda. Cancer is a disease that is closely related to various challenges and issues, which are variously political, economic and cultural in nature. In this course we aim to direct questions relating to cancer in Asia to leading figures and create a forum for dialogue on how Japan should engage with Asia in fighting cancer.

授業計画

様々な領域の第一人者である外部講師を招聘して、オムニバス方式で、がんを社会の中でどのようにとらえるかという思索を重ねる。高齢化社会、死生観の多様性、医療格差を乗り越える社会的正義など、アジアが抱える様々な今日的な課題が、浮かびあがってくるような構成となっている。他大学との交流講義も予定している。
参考文献 東京大学横断型講義 アジアでがんを生き延びる 東大出版会2013年4月刊行

吉見俊哉(東京大学大学院 情報学環 教授)
園田茂人(東京大学大学院 情報学環 教授)
田中英夫(地域がん登録全国協議会理事長)
三宅淳(大阪大学基礎工学研究科 機能創成専攻教授)
波平恵美子先生(お茶ノ水女子大学名誉教授)
野田哲生(日本癌学会理事長)
油谷浩幸(東京大学先端科学技術研究センター教授)
福田敬(国立保健医療科学院 上席主任研究官)
野木森雅郁(アステラス製薬(株)代表取締役会長)
谷内正太郎先生(早稲田大学日米研究機構教授 元外務事務次官)
笹川陽平先生(日本財団会長)
西山正彦(日本癌治療学会理事長)
武見敬三先生(参議院議員)
※他 詳細は HPにて
<http://www.siccn.org/>
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

現代中国論 ～地域文化研究特別講義 II～

Advanced Lecture in Asian Studies II

科目番号 Course ID Number	31M220-1329W(修士master) 31D220-1329W(博士doctor)	使用言語 Language	中国語、日本語 Chinese, Japanese
責任教員 Schools	池本幸生(東文研)、卯田宗平(ASNET) Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia) and Shuhei Uda (ASNET)	場 所 Venue	東洋文化研究所二階第三会議室 Meeting room#3, 2nd floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期、金曜日、4限(14:50-16:20) Winter, Friday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	授業の方法:中国語論文の輪読および内容の発表、議論 成績:授業への参加の積極性によって総合的に評価する。 注意:本授業は主に中国語で行なう。 (ただ、状況を考慮し日本語を使用することもある)
授業内容 The contents of a lesson	本講義では、中国人によって執筆された日本論および日本人論に関わる研究論文及び図書を輪読し、“中国人が日本や日本人をどのように捉えているのか”を理解する。中国人が隣国日本や日本人のどこに興味があり、どのように理解しているのか、それは日本人が考える日本とどのような点で異なるのかといったことを学ぶ。 中国に親しみを感じる日本人の割合が20%を切った今日、まずはこうした作業から日中の相互理解を進める。講読する文献の選択および輪読形式などについては開講時に決める。なお、授業は主に中国語で行なう。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

現代民俗学の可能性と課題 ～通文化研究基礎論 I～

Foundation of Trans-regional Studies I

科目番号 Course ID Number	31M220-1130S(修士master) 31D220-1130S(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	菅豊(東洋文化研究所) Yutaka Suga (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所汎アジア部門室 Meeting room of Pan Asia Studies, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
キーワード Keywords	民俗学、文化資源、学問の公共性、構築主義、公共民俗学、民間学知	授業時間 Semester/Time	夏学期、水曜日、1限(9:00-10:30) Summer, Wednesday
履修上の注意 Important points concerning enrollment	担当教員の講義、ならびに課題に基づく履修者の発表。開講教室確定の都合のため、受講希望者は、初回開講日前に菅宛にメール(suga@ioc.u-tokyo.ac.jp)で連絡すること。なお授業は本郷キャンパスの東洋文化研究所で行う。 評価は、出席、発表、議論への寄与、レポートなどをもとに行う。		
授業内容 The contents of a lesson	近代的状況において、世界各地で「民俗学」という学問が勃興した。「民俗学」は、土着文化の自己理解とその復興運動、そして、その運動の学問化の運動といえる。それは、社会状況の大きな変化に伴い、現在、学問の根本からの大きな変革が求められている。その変革に向けて、旧来の民俗学の否定と解体、そして、現代に適合した新しい研究領域としての再構築を行うために、日本のみならず海外の民俗学を取り上げながら、現代民俗学の理論と実例の検討を行う。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

中東の経済発展・政治変動と文化社会変容 ～通文化研究基礎論 II～

Foundations of Trans-regional Studies I

科目番号 Course ID Number	31M220-1140S(修士master) 31D220-1140S(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	長澤榮治(東文研) Eiji Nagasawa (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所804 Room804, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期、水曜日、3限(13:00-14:30) Summer, Wednesday		
授業内容 The contents of a lesson	中東の社会変容に関する考察を通じて、同地域が直面する様々な問題に対する客観的な分析を可能にする方法論的態度を学ぶ。		

途上国農村経済論 ～アジア太平洋文化交流論Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M/D220-0980S(夏学期Summer Semester) 31M/D220-0980W(冬学期Winter Semester)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	高橋昭雄(東文研) Akio Takahashi (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所606 Room 606, Institute for Advanced Studies on Asia, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏・冬学期、火曜日、4限(14:50-16:50) Summer and Winter, Tuesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	授業での報告・発言内容、平常点等
授業内容 The contents of a lesson	発展途上国の農村社会経済について勉強する。「農業」経済ではなく「農村」社会経済であるので、当然のことながら、農村工業、労働移動、就業構造、都市化、貧困といった問題も含めて演習の課題とする。どのような 이슈に重点をおくかについては参加者と協議のうえ決定する。		

明治維新期の日本 ～アジア太平洋地域文化演習Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0992S(修士master) 31D220-0992S(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	三谷博(総合文化研究科) Hiroshi Mitani (Art and Sciences)	場 所 Venue	駒場キャンパス12号館1233号室 Room1233, Bldg.12, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期、水曜日、4・5限(14:50-16:20、16:30-18:00) Summer, Wednesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	使用文献: 明治維新学会編『講座 明治維新』1-5巻(有志舎)
授業内容 The contents of a lesson	明治維新期の日本について、研究文献と史料を隔週に読む。研究文献としては、夏学期は主に『講座 明治維新』の各巻から約10本の論文を選んで読み、史料は明治初期の新聞の国際関係記事を系統的に読んでゆく。		

明治維新期の日本Ⅱ ～アジア太平洋地域文化演習Ⅰ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0992W(修士master) 31D220-0992W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	三谷博(総合文化研究科) Hiroshi Mitani (Art and Sciences)	場 所 Venue	未定(TBA)
授業時間 Semester/Time	冬学期、水曜日、4・5限(14:50-16:20、16:30-18:00) Winter, Wednesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	使用文献: 明治維新学会編『講座 明治維新』1-5巻(有志舎)
授業内容 The contents of a lesson	明治維新期の日本について、研究文献と史料を隔週に読む。史料は明治初期の新聞の国際関係記事を系統的に読んでゆく。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

朝鮮半島をめぐる政治経済・国際政治 ～多元地域協力論 I～

科目番号 Course ID Number	31M220-0010S(修士master) 31D220-0010S(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	木宮正史(学際情報学府) Tadashi Kimiya (Interfaculty Initiative in Information Studies)	場 所 Venue	駒場8-210教室 Room210, Bldg.8, Komaba Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期、火曜日、5限(16:30-18:00) Summer, Tuesday		
履修上の注意 Important points concerning enrollment	教科書:Niall Ferguson, Charles S. Maier, Erez Manela, Daniel J. Sargent, eds., "The Shock of the Global: The 1970s in Perspective" Cambridge, The Belknap Press of Harvard University, 2010. など。		
授業内容 The contents of a lesson	1970年代の国際政治は「デタント」として特徴づけられる。1960年代の冷戦の絶頂期が70年代に入り、米中和解や米ソデタントなど、大国間国際政治のレベルで「デタント」と呼ばれる緊張緩和への動きが生まれ、それが一定程度制度化されたにもかかわらず、必ずしも堅固化しなかったという点に特徴があると思われる。また、大国間国際政治におけるデタントが、冷戦体制に組み込まれた諸地域や諸国家に対してどのような影響を及ぼし、どのような帰結をもたらしたのかについても、近年、外交文書の公開とともに研究が蓄積されつつある。本授業では、The Shock of the Global the 1970s In Perspective, を読み、1970年代国際政治に関する研究に新たな視点を取り入れることを目指す。そのうえで、受講者の関心に沿って、1970年代国際政治に関連した事例研究を行い、発表してもらおうとも考えている。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

人間環境論 II ～現代社会における社会－生態システム変動～ Human Geography II

科目番号 Course ID Number	31M282-0620S(修士master) 31D282-0620S(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	永田淳嗣(総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)	場 所 Venue	大学院総合文化研究科2号館202号室 Room 202, Bldg.2, Komaba Campus
キーワード Keywords	社会-生態システム変動、人文地理学、社会科学方法論	授業時間 Semester/Time	夏学期、火曜日、2限(10:40-12:10) Summer, Tuesday
履修上の注意 Important points concerning enrollment	評価は平常点とレポートによる。		
授業内容 The contents of a lesson	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

サステナビリティの戦略 II ～現代社会における社会－生態システム変動～ Sustainability Strategy II

科目番号 Course ID Number	31M290-0180W(修士master) 31D290-0180W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	永田淳嗣(総合文化研究科) Junji Nagata (Art and Sciences)	場 所 Venue	未定(TBA)
キーワード Keywords	社会－生態システム変動、人文地理学、社会科学方法論	授業時間 Semester/Time	冬学期、火曜日、3限(13:00-14:30) Winter, Tuesday
履修上の注意 Important points concerning enrollment	評価は平常点とレポートによる。		
授業内容 The contents of a lesson	現代社会における社会変動と生態システム変化の複雑な関係を読み解くための、現場での現象理解に立脚した方法論・手法を受講者とともに探る。理論面とともに日本や東南アジアでの研究に基づく実践面からの検討を行う。主体的な問題意識を持ち、インテンシブな文献購読、濃密なディスカッション、十分に準備されたプレゼンテーションに意欲を持つものに受講を限る。		



分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

第二次世界大戦後の日本のアジア認識 ～地域文化研究特殊研究Ⅰ～

Advanced Lecture in Asian Studies I

科目番号 Course ID Number	31M220-1334W(修士master) 31D220-1334W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	古田元夫(総合文化研究科) Motoo Furuta (Art and Sciences)	場 所 Venue	未定(TBA)
履修上の注意 Important points concerning enrollment	教材は授業中に配布する。	授業時間 Semester/Time	冬学期、火曜日、2限(10:40-12:10) Winter, Tuesday
授業内容 The contents of a lesson	大塚久雄、竹内好、江口朴郎、上原専記禄、梅棹忠夫、遠山茂樹、田中正俊、板垣雄三、浜下武志など、第二次世界大戦後の日本の社会人文科学のアジア認識の変遷を代表する研究者の論文を検討する。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

戦後日本社会の形成と変容 ～アジア太平洋文化交流論Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0981W(修士master) 31D220-0981W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	外村大(総合文化研究科) Masaru Tonomura (Art and Sciences)	場 所 Venue	未定(TBA)
授業時間 Semester/Time	冬学期、火曜日、2限(10:40-12:10) Winter, Tuesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	通常の授業での報告および討論のあり方と学期末のレポートをもとに評価を行う。
授業内容 The contents of a lesson	1930年代末から1945年にかけての朝鮮の社会、朝鮮人の思想、日本人と朝鮮人の民族関係などについて、同時代の史料の読解を通じて学んでいく。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

韓国社会論 ～アジア社会比較発展論Ⅱ～

科目番号 Course ID Number	31M220-0961W(修士master) 31D220-0961W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	有田伸(社会科学研究所) Shin Arita (ISS)	場 所 Venue	社会科学研究所308教室 Room 308, Institute of Social Science, Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期、月曜日、5限(16:30-18:00) Winter, Monday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	
授業内容 The contents of a lesson	現代韓国における教育・労働市場・社会階層等に関する諸文献(主に韓国語文献)を講読し、日本社会との比較の観点から、現代韓国社会に対する理解を深めていきます。また、参加者の研究発表も適宜行い、地域研究として韓国社会を研究していくことの意義と留意点について議論を行っていきます。		

分野／総論 Field : Liberal Arts and Sciences

単位／2 Credit : 2

書き直される中国近現代史(6) ～国際社会科学特別講義Ⅳ～

Foundations of Trans-regional Studies IV

科目番号 Course ID Number	31M230-1140W(修士master) 31D230-1140W(博士doctor)	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	川島真(総合文化研究科) Shin Kawashima (Art and Sciences)	場 所 Venue	未定(TBA)
授業時間 Semester/Time	冬学期、木曜日 Winter, Thursday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	○履修資格:東京大学大学院、学部(単位履修については所属大学院、学部の規定による) ○成績評価基準:レポート方式

授業内容 The contents of a lesson	<p>書き直される中国近現代史(6) 「戦後東アジア国際政治史—問題意識と研究手法の変遷—」</p> <p>今年で第六回を数える「書き直される中国近現代史」では、昨今研究の進展が著しい戦後東アジアの国際政治史を取り上げたい。この分野は、アメリカやイギリス、あるいはソ連の文書などによって、いわば世界的な冷戦史の一部として歴史が叙述されていた状況から、いまや日本、中国、韓国、台湾などの文書を用いた、東アジアの内部の状況を踏まえた研究へと転換してきている。このような研究の進展は、同時にそれぞれの国や地域で同時代的に進められていた研究のあり方を再点検する契機ともなる。たとえば、戦後日本の中国認識と(ある意味で)ともにあつた中国研究のあり方を振り返る上でのいい機会に成るのではないかということである。そこで、今回は研究の最前線にたつ若手から、長年に亘り当該分野を担って来たシニアの研究者を講師に、問題意識や研究手法の推移を中心に、これまで何が問題とされ、どのように研究され、そしていま何が課題なのかということ、多角的な視野から講義して戴く予定である。</p> <p>参考: この講義は、2013年度で第六回目を迎える。第一年度(2008年度)は人物評価を、第二年度(2009年度)は事件・運動を、第三年度(2010年度)はローカルな空間や社会集団を軸に講義を組み立て、第四年度(2011年度)は史料・資料に焦点を当て、第五年度(2012年度)は主に若手研究者をゲストに招き、その視線から見た中国近現代史書き直しの課題を扱ってきた。その内容は、東京大学現代中国研究拠点(社会科学研究所)ウェブサイトに掲載されている(http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/)。</p>
----------------------------------	---

講義日程(日程・テーマの変更可能性あり)

10月10日(木) 第一回	／川島真(東京大学) 「ガイダンス+戦前/後の東アジア国際政治史—尖閣問題を例にして—」
10月17日(木) 第二回	／石井明(東京大学) 「中ソ対立への道程」
10月24日(木) 第三回	／佐橋亮(神奈川大学) 「戦後初期東アジアの国際環境とアメリカ」
10月31日(木) 第四回	／杉浦康行(防衛省防衛研究所) 「戦後初期中国の対外政策と日本」
11月 7日(木) 第五回	／神田豊隆(新潟大学) 「戦後日中関係史をどう見るか(1)」
11月14日(木) 第六回	／井上正也(香川大学) 「戦後日中関係史をどう見るか(2)」
11月21日(木) 第七回	／丸川知雄(東京大学) 「戦後日中経済史研究へのアプローチ」
11月28日(木) 第八回	／福田円(法政大学) 「中国外交における台湾問題」
12月 5日(木) 第九回	／松田康博(東京大学) 「台湾から見る戦後東アジア国際関係」
12月12日(木) 第十回	／村田雄二郎(東京大学) 「戦後日本における中国研究と中国認識」
12月19日(木) 第十一回	／青山瑠妙(早稲田大学) 「現代中国外交をいかに捉えるか」
1月 9日(木) 第十二回	／高原明生(東京大学) 「現代日中関係研究の最前線」



分野／社会・文化論 Field : Society and Culture

単位／4 Credit : 4

アジア海域世界と世界史 ～比較アジア社会文化論演習～

Seminar in Asian Thalassic Worlds and World History

科目番号 Course ID Number	21132865	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	羽田正 (東文研) Masashi Haneda (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所8階806号室 Room806, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
キーワード Keywords	世界史、グローバルヒストリー World History, Global History	授業時間 Semester/Time	通年、月曜日、4限 (14:50-16:30) All year, Monday
授業内容 The contents of a lesson	<p>プリンストン大学(アメリカ)の教員が作成した大学生用の世界史テキストを読み、地域史と世界史の関係に留意しながら、新しい世界史叙述の方法を考える。</p> <p>○成績:出席と授業への参加度</p> <p>○教科書:Worlds Together Worlds Apart. A History of the World, Third Edition (2011), W.W.Norton & Company (NY) 教科書は最初の時間にコピーを配布するので、購入する必要はない</p> <p>○授業の方法:担当学生が該当章の要約と議論のポイントを作成し、それを基に全員で討論する。</p>		

分野／社会・文化論 Field : Society and Culture

単位／2 Credit : 2

民族誌と歴史 ～韓国朝鮮言語社会演習～

科目番号 Course ID Number	21136553	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	本田洋(人文) Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	赤門総合研究棟 赤門723 Seminar Room 723, Akamon General Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期、月曜日、4限 (14:50-16:30) Summer, Monday		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的:韓国朝鮮社会を民族誌的に記述・分析・解釈する方法について、社会・文化人類学の民族誌的文献、ならびに関連諸分野の研究文献の講読を通じて検討する。特に、慣習的・日常的行為としての実践に焦点を合わせたアプローチと、民族誌記述を歴史的脈絡に置き戻して分析・解釈する視角に重点を置いて、文献の精読にあたりたい。</p> <p>○授業の方法:授業は演習形式で行う。初回にガイダンスを行い、2回目から文献購読に入る。講読する文献には一部、日本語のものも含まれるが、主体は韓国語と英語で書かれたものとなる。受講者は韓国語の基礎的な読解能力を具備していることが望ましいが、英語文献の発表や討論への積極的な参加が可能であれば、必ずしも韓国語が分からなくても受講を歓迎する。また、修士課程2年以上の受講者については、個人研究発表の機会も設けたい。</p> <p>○成績評価方法:平常点(出席状況、発表、討論、その他授業への参加姿勢)。</p>		

分野／社会・文化論 Field : Society and Culture

単位／2 Credit : 2

モダニティの民族誌 ～韓国朝鮮言語社会演習～

科目番号 Course ID Number	21136554	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	本田洋(人文) Hiroshi Honda (Humanities and Sociology)	場 所 Venue	赤門総合研究棟 赤門723 Seminar Room 723, Akamon General Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期、月曜日、4限 (14:50-16:30) Winter, Monday		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的:夏学期「民族誌と歴史」での議論を踏まえ、韓国朝鮮社会における近代性(モダニティ)の諸相について、民族誌的記述に基づき、社会・文化人類学、ならびに歴史人類学的な観点から検討する。</p> <p>○授業の方法:授業は演習形式で行う。初回にガイダンスを行い、2回目から文献購読に入る。講読する文献には一部、日本語のものも含まれるが、主体は韓国語と英語で書かれたものとなる。受講者は韓国語の基礎的な読解能力を具備していることが望ましいが、英語文献の発表や討論への積極的な参加が可能であれば、必ずしも韓国語が分からなくても受講を歓迎する。また、修士課程2年については修士論文の中間発表、博士課程については個人研究発表の機会も設ける。</p> <p>○成績評価方法:平常点(出席状況、発表、討論、その他授業への参加姿勢)。</p>		

分野 / 社会技術論 Field : Social Technology

単位 / 2 Credit : 2

都市の持続再生学(A)

Sustainable Urban Regeneration A

科目番号 Course ID Number	3713-076 (社会基盤学専攻) 3714-127 (建築学専攻) 3716-130 (都市工学専攻) 3799-134 (共通科目)	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	工学三専攻 Engineering	場 所 Venue	工学部1号館15講義室 Room 15, Faculty of Engineering, Bldg.1
授業時間 Semester/Time	夏学期、月曜日、5限 (16:40-18:20) Summer, Monday		
授業内容 The contents of a lesson	講義内容についてはASNETのホームページで確認すること。 複数の専攻の合併授業であるため、履修登録の際は重複して登録しないこと。		

分野 / 社会技術論 Field : Social Technology

単位 / 2 Credit : 2

都市の持続再生学(B)

Sustainable Urban Regeneration B

科目番号 Course ID Number	3713-077 (社会基盤学専攻) 3714-128 (建築学専攻) 3716-131 (都市工学専攻) 3799-135 (共通科目)	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	工学三専攻 Engineering	場 所 Venue	工学部1号館15講義室 Room 15, Faculty of Engineering, Bldg.1
授業時間 Semester/Time	冬学期、金曜日、5限 (16:40-18:20) Winter, Friday		
授業内容 The contents of a lesson	講義内容についてはASNETのホームページで確認すること。 複数の専攻の合併授業であるため、履修登録の際は重複して登録しないこと。		

分野 / 社会技術論 Field : Social Technology

単位 / 2 Credit : 2

国際プロジェクトの事例分析特論E

Case Studies of International Projects

科目番号 Course ID Number	3713-073	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	堀井秀之(工) Hideyuki Horii (Engineering)	講師陣 Lecturers	本田利器准教授、加藤浩徳准教授、石田哲也准教授
授業時間 Semester/Time	冬学期、水曜日、3限 (13:00-14:30) Winter, Wednesday		
場 所 Venue	工学部1号館17講義室 Room 17, Faculty of Engineering, Bldg.1		
履修上の注意 Important points concerning enrollment	○授業の方法: ケース(教材)を分析し、グループ討論、全体討論を行う。		
授業内容 The contents of a lesson	国際プロジェクトに関わる事例を取り上げ、ケースメソッドによる学習を通じて、国際プロジェクトに関わる知識、問題分析方法・能力、問題解決策立案方法・能力を習得する。特に、それぞれ専門知識を持った教員の下での学習を行うことによって、各ケースに関わる専門的知識を身につけることも求められる。		

有機農業と持続可能な発展 ～汎アジア経済論Ⅲ～

Seminar in Pan-Asian Economics Ⅲ

科目番号 Course ID Number	3905127	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	池本幸生(東文研) Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	農学部1号館地下1階 2-2 Room2-2, Faculty of Agriculture, Bldg.1, Hongo Campus
キーワード Keywords	経済発展、有機農業、アジア Economic Development, Organic Farming, Asia	授業時間 Semester/Time	夏学期、水曜日、3限(13:00-14:40) Summer, Wednesday
授業内容 The contents of a lesson	日本およびアジアの有機農業の実践を通して、持続可能な発展のあり方について考える。	履修上の注意 Important points concerning enrollment	○成績評価:出席およびレポート ○参考書:授業の際に指示する。

アマルティア・センの正義論 ～汎アジア経済論Ⅳ～

Seminar in Pan-Asian Economics Ⅳ

科目番号 Course ID Number	3905128	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	池本幸生(東文研) Yukio Ikemoto (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	農学部1号館地下1階 2-2 Room2-2, Faculty of Agriculture, Bldg.1, Hongo Campus
キーワード Keywords	マルティア・セン、正義論、ケイバビリティ・アプローチ Amartya Sen, The Idea of Justice, Capability Approach	授業時間 Semester/Time	冬学期、水曜日、3限(13:00-14:40) Winter, Wednesday
授業内容 The contents of a lesson	アマルティア・センのThe Idea of Justiceを読んでいく。	履修上の注意 Important points concerning enrollment	○成績評価:レポートによる ○教科書:Amartya Sen, The Idea of Justice

アジアの食と農・環境 ～農学国際特論Ⅲ／環境政策特別講義～

Food, agriculture and environment in Asia

科目番号 Course ID Number	3910132(農学国際特論Ⅲ) 3910217(環境政策特別講義)	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	井上真(農学生命科学研究科) Makoto Inoue (Agriculture)	場 所 Venue	農学部7号館B-231/232講義室 Lecture room at Bldg.7B (7B-231/232), Faculty of Agriculture, Hongo Campus
キーワード Keywords	環境影響評価、森林ガバナンス、気候変動政策、先住民/ Environmental Impact Assessment, Forest Governance, Climate Change Policy, Indigenous people	授業時間 Semester/Time	夏・冬、集中講義(10:00-17:00) Summer, Winter, Intensive
履修上の注意 Important points concerning enrollment	出席により評価する。単位取得のためには年間4回の出席が必要である。		
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の概要 アジアの食料、農業および環境問題の現状と解決策について、俯瞰的な視野を持つとともに、ローカルな現場のリアリティに立脚して検討できるような複眼的な視点を養う。</p> <p>○授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) May 25, 2013: Sustainable Livelihood Framework and it's application to analyze rural development (by Prof. Tapan Kumar Nath, Institute of Forestry and Environmental Sciences, University of Chittagong, Bangladesh) 2) July 20, 2013: Political and environmental situation in Chittagong Hill Tracts (CHT), Bangladesh: Implications for sustainable development (by Prof. Tapan Kumar Nath, Institute of Forestry and Environmental Sciences, University of Chittagong, Bangladesh) 3) October 5, 2013: Rural development through carbon financing: A feasibility analysis in South Asia (by Prof. Tapan Kumar Nath, Institute of Forestry and Environmental Sciences, University of Chittagong, Bangladesh) 4) December **, 2013: Economic and social aspects of tea plantations in Sri Lanka: Challenge and policy implications 5) January **, 2014: Food and agricultural policy in Asia: Overview in Asia and the case of Sri Lanka <p>○授業の方法 外国人客員教員等が、上記のテーマに関して一日ずつ集中講義を英語で行う。</p> <p>○成績評価方法 出席により評価する。単位取得のためには年間4回の出席が必要である。</p>		

分野／自然環境論 Field : Natural Environment

単位／2 Credit : 2

里山学総論

Satoyama, the traditional rural landscape of Japan

科目番号 Course ID Number	3911151	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	大黒俊哉(農学生命科学研究科) Toshiya Okuro (Agriculture)	講師陣 Lecturers	武内和彦、山本勝利、宮下直、青柳みどり、齊藤修、大黒俊哉
キーワード Keywords	生態系サービス、生物多様性、資源・エネルギー、 コモンズ、パートナーシップ、伝統的知識、 里山里海サブグローバル評価 Ecosystem Service, Biodiversity, Resource and Energy, Commons, Partnership, Traditional knowledge, Satoyama-Satoumi Sub Global Assessment	授業時間 Semester/Time	夏(集中、6月下旬を予定) Summer, Intensive
履修上の注意 Important points concerning enrollment	成績評価基準:出席、議論への参加状況および レポートにより評価する。 Assessment is made based on attendance, participation in discussion and report writing.	場 所 Venue	未定(TBA)
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の概要 To acquire basic skills for communicating the natural-social systems supporting the nature-harmonious society of the 21st Century to the international community, and at the same time, to deepen the understanding of the changes and present condition of the so-called 'satoyama' as 'the traditional-sustainable local resources utilization and ecosystem management system' from the aspect of natural sciences, humanities and social sciences. いわゆる「里山」を「伝統的・持続的な地域資源利用・生態系管理システム」としてとらえ、自然科学的・人文社会的側面からその変遷と現状についての理解を深めるとともに、21世紀の自然共生社会を支える自然・社会システムとして国際社会に発信するための基礎的能力を習得する。</p> <p>○授業計画 The study of satoyama is a multidisciplinary science designed to formulate the natural-social systems that leads towards nature-harmonious society based on the understanding of the interaction between the natural environment and human activities. Therefore, in this course, by capturing the natural-social systems of satoyama from a diverse academic fields such as ecology (animal, plant, agricultural, landscape and conservation), landscape architecture, rural planning, ethnology and human ecology with keywords such as 'ecosystem services', 'biodiversity', 'resources and energy', 'commons', 'community revitalization' and 'partnership', we aim to systematize these through an integrated approach of humanities and sciences. 里山学とは、自然環境と人間活動の係わりの理解に基づき、自然共生社会を拓く自然・社会システムを構築していくための総合科学である。そのため本講義では、生態系サービス、生物多様性、資源・エネルギー、コモンズ、パートナーシップ等をキーワードに、生態学(動物、植物、農業、景観、保全)、緑地環境学、農村計画学、社会学、民俗学、人類生態学など、多様な学問領域から里山の自然・社会システムをとらえ、文理融合アプローチによりそれらを体系化していく。</p> <p>○授業の方法 The course consists of omnibus-style lectures and 1-day field excursion. Student presentation regarding "Future Scenario of Satoyama" will be also held. 担当教員によるオムニバス形式の集中講義および都市近郊里山への巡検(1日)を行う。また講義日程後半に、里山の将来シナリオをテーマとして、学生(個人またはグループ)によるプレゼンテーション及び討議を行う。</p> <p>○日程 6/17(月):講義1日目(東大弥生キャンパス) 6/20(木):講義2日目(東大弥生キャンパス) 6/21(金):グループワーク(国連大高等研究所、横浜) 6/22(土):巡検(新治市民の森、横浜)</p> <p>○成績評価方法 Assessment is based on attendance, participation in discussion and report writing. 出席、議論への参加状況およびレポートにより評価する。</p>		

アジア自然共生論

Nature-Harmonious Society in Asia

科目番号 Course ID Number	3911152	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	大黒俊哉 (農学生命科学研究科) Toshiya Okuro (Agriculture)	講師陣 Lecturers	大黒俊哉、バリケシット (インドネシア・パジャジャラン大学) Toshiya Okuro and Parikesit (Padjadjaran University, Indonesia)
場所 Venue	未定 (TBA)	キーワード Keywords	自然共生社会、生態系サービス、生物多様性 Nature-harmonious Society, Ecosystem Services, Biodiversity
授業時間 Semester/Time	冬集中 (1月下旬) Winter, Intensive (TBA)	履修上の注意 Important points concerning enrollment	成績は、出席、プレゼンテーションおよび議論への参加状況により評価する。 Assessment is made based on attendance, presentation and participation in discussion.
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の概要</p> <p>To deepen the understanding of the common and local natural-social systems on an Asian scale through comparison with the satoyama of Japan, and at the same time, to learn the establishment, changes and present condition of the sustainable and cyclical use of local resources and ecosystem management systems found throughout Monsoon Asia.</p> <p>モンスーンアジア各地でみられる持続的・循環的な地域資源利用・生態系管理システムの成り立ち、変遷および現状を学ぶとともに、日本における「里山 (SATOYAMA)」との比較等を通じて、自然・社会システムにみられるアジアスケールでの共通性と地域性についての理解を深める。</p> <p>○授業計画</p> <p>This course considers the role of contemporary revival and restructuring of the Nature-harmonious Society in Asia by highlighting the 'wisdom of nature coexistence' accumulated in the Asian Region through comparison and systematization of the satoyama-type landscapes and land uses across Asia from the perspective of the interaction between the natural environment and human activities. Furthermore, case studies from Asia are presented from the aspect of natural sciences, humanities and social sciences with keywords such as agroforestry, biomass use, community revitalization and commons.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Human - nature interrelations 2. Between 'human against nature' and 'human work with nature' 3. Ecosystem functions and services in human-dominated landscape 4. Biodiversity Maintenance and Condition in Human-dominated Landscape: Case of Indonesia 5. Human - Nature Interrelations: Energetic perspective <p>本講義では、アジア各地の里山的な景観・土地利用を、自然環境と人間活動の係わりという観点から比較・体系化することにより、アジア地域に蓄積している「自然との共生の智慧」を明らかにし、アジア型自然共生社会 (Nature-harmonious society in Asia) の現代的再生・再編のあり方を考えていく。講義では、アグロフォレストリー、バイオマス利用、コミュニティ再生、コモンズ論等をキーワードとして、自然科学的・人文社会学的側面からアジアのケーススタディを紹介する。</p> <p>○授業計画</p> <p>Specialists in local resources management with research fields in Asia are invited from overseas to conduct intensive lectures in English for about a week. Student presentation will be held in 3rd, 4th, and 5th class meetings. Each student or group has to decide a topic relevant with the theme "Human - Nature Harmonious Relations" and/or in relation to students' research topic.</p> <p>アジアをフィールドとする地域資源管理の専門家を海外から招へいし、1週間程度の英語による集中講義を行う。講義日程後半に学生 (個人またはグループ) によるプレゼンテーション及び討議を行う。テーマは講義内容に関連したものまたは各自が行っている研究とする。</p> <p>○成績評価方法</p> <p>Assessment is made based on attendance, presentation and participation in discussion.</p> <p>成績は、出席、プレゼンテーションおよび議論への参加状況により評価する。</p>		

分野 / 健康論 Field : Health Sciences

単位 / 2 Credit : 2

国際地域保健学特論 I

Special Lecture in Community Health I

科目番号 Course ID Number	41322121	使用言語 Language	英語、日本語 Englishu, Japanese
責任教員 Schools	神馬征峰 (医学系研究科) Masamine Jimba (Medicine)	講師陣 Lecturers	国際協力経験豊富な講師陣
場所 Venue	教育研究棟のセミナー室 Lecture Room, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus	キーワード Keywords	グローバルヘルス、地域保健、プライマリヘルスケア、 ヘルスプロモーション、学校保健 Global health, Community health, Primary health care, Health promotion
授業時間 Semester/Time	夏学期、金曜日、3・4限 (13:00-16:20) Summer, Friday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	受講希望者は事前に柴沼助教shibanuma@gmail.com へ連絡して下さい。

授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的: グローバルヘルス、コミュニティーヘルスと開発、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、途上国における学校保健についての概念と今日的话题について理解する。また、地域基盤型プロジェクトの進め方や評価方法などについて学ぶ。</p> <p>○授業の方法: 講義、ディスカッション、学生によるプレゼンテーションなど</p> <p>○教科書: I Rootman, S Dupere, A Pederson, & M O'Neill. 2012. <i>Health Promotion in Canada: Critical Perspective on Practice</i> (Brown Bear Press) A Banerjee, & E Duflo. 2010. <i>Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty</i> (Public Affairs) LW Green & M Kreuter. 2004. <i>Health Program Planning: An Educational and Ecological Approach</i> (McGraw-Hill Humanities/Social Sciences/Language)</p> <p>○成績評価基準: 出席、ディスカッションへの参加、プレゼンテーションによる。</p>	<p>授業日程</p> <table border="1"> <tr> <td>April 12</td> <td>What is Global Health?</td> <td>Jimba</td> </tr> <tr> <td>April 19</td> <td>Community Development and Health</td> <td>Jimba</td> </tr> <tr> <td>April 26</td> <td>Primary Health Care: Past and Present/ Human Resource for Health</td> <td>Jimba</td> </tr> <tr> <td>May 10</td> <td>Health Promotion: Beyond Health Education/ Precede-Proceed Model for Health Promotion</td> <td>Jimba</td> </tr> <tr> <td>May 17</td> <td>School Health in Developing Countries</td> <td>Jimbe</td> </tr> <tr> <td>May 24</td> <td>Health and Social Behavior</td> <td>Yoo/Jimba</td> </tr> <tr> <td>May 31</td> <td>Microfinance/ Community-based Health insurance</td> <td>Kitajima</td> </tr> <tr> <td>June 14</td> <td>Management of Community-based Health Projects 1</td> <td>Hirayama</td> </tr> <tr> <td>TBA</td> <td>Management of Community-based Health Projects 2</td> <td>Hirayama</td> </tr> <tr> <td>June 21</td> <td>Social Capital</td> <td>Fujisawa</td> </tr> <tr> <td>June 28</td> <td>Gender and Health</td> <td>Sasaki</td> </tr> <tr> <td>July 12</td> <td>Community Health Assessment</td> <td>Jimba/Shibanuma</td> </tr> </table>	April 12	What is Global Health?	Jimba	April 19	Community Development and Health	Jimba	April 26	Primary Health Care: Past and Present/ Human Resource for Health	Jimba	May 10	Health Promotion: Beyond Health Education/ Precede-Proceed Model for Health Promotion	Jimba	May 17	School Health in Developing Countries	Jimbe	May 24	Health and Social Behavior	Yoo/Jimba	May 31	Microfinance/ Community-based Health insurance	Kitajima	June 14	Management of Community-based Health Projects 1	Hirayama	TBA	Management of Community-based Health Projects 2	Hirayama	June 21	Social Capital	Fujisawa	June 28	Gender and Health	Sasaki	July 12	Community Health Assessment	Jimba/Shibanuma
	April 12	What is Global Health?	Jimba																																			
April 19	Community Development and Health	Jimba																																				
April 26	Primary Health Care: Past and Present/ Human Resource for Health	Jimba																																				
May 10	Health Promotion: Beyond Health Education/ Precede-Proceed Model for Health Promotion	Jimba																																				
May 17	School Health in Developing Countries	Jimbe																																				
May 24	Health and Social Behavior	Yoo/Jimba																																				
May 31	Microfinance/ Community-based Health insurance	Kitajima																																				
June 14	Management of Community-based Health Projects 1	Hirayama																																				
TBA	Management of Community-based Health Projects 2	Hirayama																																				
June 21	Social Capital	Fujisawa																																				
June 28	Gender and Health	Sasaki																																				
July 12	Community Health Assessment	Jimba/Shibanuma																																				

精神保健学 I

Mental Health I

科目番号 Course ID Number	41318211	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	川上憲人(医)、島津明人(医)、非常勤講師 Norito Kawakami (Medicine) and Akihito Shimazu (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟13階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期、火曜日、5限(16:40-18:10) Summer, Tuesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	職場における精神保健対策について深く学ぶ「精神保健学II」と関連する。
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的: 精神保健の実態およびニーズを把握し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を知り、地域における対策の進め方について事例(ケーススタディ)を通じて学ぶことで、実践的な能力も身につけることを目的とする。</p> <p>○授業の方法: 各回1テーマの講義あるいは事例研究(ケーススタディ)、担当教員(または非常勤講師)による講義、あるいは学生がテーマに関して発表しこれに担当教員が補足を行い、全員で討論(ティベート)する。</p> <p>○教科書・参考書等: 教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。</p> <p>○成績評価の方法: 出席、課題発表およびレポートにより総合的に評価する。</p>		
授業計画及び内容	<p>4月 9日 1)オリエンテーション、総論 4月16日 2)精神疾患の診断、頻度と危険因子 4月23日 3)精神健康の測定と評価 4月30日 4)精神保健とサービス利用 5月 7日 5)認知行動療法と精神保健 5月14日 6)世界の疾病負担2010と精神保健 5月21日 7)課題発表1: 精神保健の対策と効果(その1) 5月28日 8)課題発表1: 精神保健の対策と効果(その2) 6月 4日 9)トピックス①: うつ・自殺対策(国および秋田県の対策) 6月11日 10)トピックス②: うつ・自殺対策(長崎県の対策) 6月18日 11)トピックス③: 職場のメンタルヘルス 6月25日 12)トピックス④: 精神障がいからのリカバリー 7月 2日 13)トピックス⑤: 災害時の精神保健 7月 9日 14)トピックス⑥: 精神保健行政の現状と課題 7月23日 15)課題発表2(5, 6限)※ ※最終回のみ授業時間が16:40-20:00となるので注意すること。</p>		

精神保健学 II

Mental Health II

科目番号 Course ID Number	718212	使用言語 Language	日本語、英語 Japanese, English
責任教員 Schools	島津明人(医)、川上憲人(医)、非常勤講師 Akihito Shimazu (Medicine), Norito Kawakami (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟13階公共健康医学専攻講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	冬学期、火曜日、5限(16:40-18:10) Winter, Tuesday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学I」を受講していることが望ましい。
授業内容 The contents of a lesson	<p>○授業の目的: 職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。</p> <p>○授業の方法: 各回1テーマの講義あるいは事例研究(ケーススタディ)、担当教員(または非常勤講師)による講義と全員での討論。</p> <p>○教科書・参考書等: 毎回、講義資料を配付する。</p> <p>○成績評価の方法: 出席(30%)、レポート(70%)により総合的に評価する。</p>		
授業計画及び内容	<p>10月 1日 コース概要、産業精神保健総論 10月 8日 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10月15日 ワーク・ライフ・バランスとメンタルヘルス 10月22日 日本人の長時間労働について 10月29日 キャリア発達とメンタルヘルス 11月 5日 職場環境改善の効果的な進め方 11月12日 外部のメンタルヘルスサービス機関をどのように選定するか? 11月19日 現代型うつ病について 11月26日 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 12月 3日 失業者のメンタルヘルス対策 12月10日 労働者の復職支援プログラム 1月 7日 中小規模事業所のメンタルヘルス対策と公的支援体制 1月14日 これからの職場のメンタルヘルス 1月21日 経営学からみたメンタルヘルス</p>		

分野 / 健康論 Field : Health Sciences

単位 / 2 Credit : 2

医療コミュニケーション学講義

Health Communication Lecture

科目番号 Course ID Number	41318120	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	木内貴弘(医)、石川ひろの(医) Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)	場 所 Venue	医学部・教育研究棟13階講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus
授業時間 Semester/Time	夏学期(前半)、火曜3、4時限(13:00-16:20) Summer, Tuesday		

履修上の注意
Important points concerning enrollment
○他の授業との関連:医療コミュニケーション学は、公衆衛生学・医学・医療のあらゆる分野と関係しているが、健康社会学、健康教育学、老年社会科学、健康増進科学、医療安全管理学との関係が深い。

授業内容
The contents of a lesson
○授業の目的:本講義の目的は、医療コミュニケーションの理論と実践方法を体系的に学習することにある。
医療コミュニケーションとは、医療従事者相互、医療従事者と患者間、患者相互等における医学・医療分野に関係した知識や情報のやりとりを意味する。医療コミュニケーションは、医学・医療と社会のインターフェイスとして、パブリックヘルス分野において、非常に重要な意味を持っている。従来、ヒト対ヒトのいわゆるヒューマンコミュニケーションを主体に考えられてきたが、現在では、これに加えて、インターネット、マスメディア、コンピュータ・ゲーム機等を介したコミュニケーションの意義・役割が増大している。
本講義では、個人あるいは社会としての最適な健康上のアウトカムを得るために、医学・医療に関する知識・情報を、正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうために必要な、(1)コミュニケーションの理論体系、(2)コミュニケーションの実務的方法論、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、医療コミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う(具体的な内容は下記の「授業計画及び内容」を参照のこと)。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。
○参考文献:
・Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. Oxford University Press. 2009
・Teresa L. Thompson, Alicia Dorsey, Katherine Miller, Roxanne Parrott (Editor) Handbook of Health Communication, Lawrence Erlbaum, 2003
・ピーター・G. ノートハウス、ローレル・L. ノートハウス (著)、萩原明人(訳)。ヘルス・コミュニケーション—これからの医療者の必須技術。九州大学出版会。2010
・藤崎和彦、橋本英樹 (著)、医療コミュニケーション研究会 (編)、医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ。篠原出版新社。2010
○成績評価の方法:講義への出席(30%)、試験(70%)による。
○授業の方法:
・各回原則1テーマの講義を行う(2回で1テーマの講義もある)。
・テーマに基づいた追加資料の配布や実例の紹介を行うことがある。

授業の日程

日時	内容	担当
4月 9日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーション学とは	木内貴弘
4月 9日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション カウンセリング入門	久田満 (上智大学)
4月16日(火) 13:00-14:30	I. 医療コミュニケーション学総論 ソーシャルマーケティング	木内貴弘
4月16日(火) 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者—医療者間コミュニケーション (2) 医療機関の立場から	北村聖 (東京大学・医学教育国際協力研究センター)
4月23日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者—医療者間コミュニケーション (1) 医療者のための実践的コミュニケーションスキル	石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)
4月30日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション エンターテインメント・エデュケーション	石川ひろの
4月30日(火) 14:50-16:20	III. メディアコミュニケーション インターネット	木内貴弘
5月 7日(火) 13:00-14:30 14:50-16:20	II. 対人コミュニケーション 患者—医療者間コミュニケーション (3) 患者の立場から	山口育子 (COML)
5月14日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (1) 新聞	阿部文彦 (読売新聞)
5月14日(火) 14:50-16:20	III. メディアコミュニケーション マスメディアによるコミュニケーション (2) テレビ	真崎理香 (NHK)
5月21日(火) 13:00-14:30	III. メディアコミュニケーション 健康キャンペーン	狩野雄司 (ACジャパン)
5月21日(火) 14:50-16:20	I. 医療コミュニケーション学総論 医療コミュニケーションの評価と実証研究	石川ひろの
5月28日(火) 13:00-14:30	試験	

医療コミュニケーション学実習

Health Communication Practice Training

科目番号 Course ID Number	41318121	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	木内貴弘(医)、石川ひろの(医) Takahiro Kiuchi (Medicine), Hirono Ishikawa (Medicine)	講師陣 Lecturers	木内貴弘、石川ひろの
場所 Venue	医学部・教育研究棟13階講義室 Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus	授業時間 Semester/Time	夏学期(後半)、水曜3-5限(MBTI実習のみ6限まで) Summer, Tuesday

履修上の注意
Important points concerning enrollment

○他の授業との関連:「医療コミュニケーション学」講義の受講が望ましいが、「医療コミュニケーション学」講義の知識は前提としない。

授業内容
The contents of a lesson

- 授業の目的:医療コミュニケーションの実践に必要な実習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践法に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場(医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等)でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。
- 授業の方法:
 - ・各回、課題にもとづいて実習・発表・討論を行う。
 - ・実習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。
- 教科書・参考書等:
 - ・本間正人、松瀬理保. コーチング入門 (日経文庫)、2006
 - ・園田由紀(訳). MBTIへの招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002
 - ・梅田望夫. ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる (ちくま新書)、2006
- 成績評価の方法:実習への参加、実習内でのプレゼンテーション、作成した資料によって評価する。やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出れば、別途レポートの提出に代える場合がある。

授業の日程

日時	内容	担当
6月 5日(水) 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 接遇実習	JALアカデミー
6月12日(水) 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネット コミュニケーション実習(1) 注意:ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの
6月19日(水) 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づく コミュニケーション実習(1)	園田由紀 (日本MBTI協会)
6月26日(水) 13:00-20:00	I. 対人コミュニケーション実習 MBTIに基づく コミュニケーション実習(2)	園田由紀 (日本MBTI協会)
7月 3日(水) 13:00-18:10	I. 対人コミュニケーション実習 コーチング実習	田口智博 (三重大学)
7月10日(水) 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 マス・コミュニケーション実習 ・新聞記事の執筆と評価 (記者会見実習) ・既存の新聞記事の評価・分析 注意:ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの
7月17日(水) 13:00-18:10	II. メディアコミュニケーション実習 インターネット コミュニケーション実習(2) 注意:ノートPC必要	木内貴弘 石川ひろの

分野 / 健康論 Field : Health Sciences

単位 / 2 Credit : 2

Human Ecology I

人類生態学特論 I

科目番号 Course ID Number	41322231	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	Prof. Chiho WATANABE (Medicine), Assoc Prof. Masahiro UMEZAKI (Medicine)	場所 Venue	Medical Building 3 Annex, E604
授業時間 Semester/Time	Summer, Friday, 9:00-12:10		

履修上の注意

○授業の方法: 講義とディスカッションを組み合わせる予定。講義では、各トピックにおける基本的概念の解説と事例の紹介を行なう。トピックによっては、事前に論文などを読んでおくことが要求される場合がある。
○成績評価: 出席、議論への参加、レポートを総合して評価する。講義・発表ともに英語で行われる。
Textbooks/ Reference Books will be announced in the lecture.
Method of Evaluation : Attendance and participation to the class, term report.
Lectures and presentation will be done in English.

授業内容

人類生態学 (human ecology) は、人間集団とその環境との相互作用について記述し、適応 (adaptation) という観点から、それを解析する科学である。この講義では、人類生態学の基礎的な概念と方法を解説する。人類生態学でカバーすべき領域は大変に広いが、人口・栄養・生業・疾病・環境を中心に議論する。
The primary goal of Human Ecology is to describe the interactions between human populations and their environments, and analyze them in terms of adaptation. The course examines such topics as population, nutrition, subsistence, disease, and environment in ecological perspectives.
The classes will be given in a combination of lectures and discussions. Basic concepts, methodologies and relevant researches will be introduced by lecture; Depending on the topic, there will be reading assignments.

授業日程

5月10日 生態学と人類生態学 (渡辺)
5月17日 栄養生態学の方法・人口調査の方法 (梅崎)
5月24日 国際保健学と人類生態学
門司和彦 (総合地球環境学研究所教授)
5月31日 環境保健学の方法 (渡辺)
6月 7日 都市の人類生態学・持続可能性 (渡辺)
6月14日 < 専攻セミナーのため休講 >
6月21日 行動調査の方法 (梅崎)
* 日程には変更の可能性あり

分野 / 健康論 Field : Health Sciences

単位 / 2 Credit : 2

健康教育学

Health Education

科目番号 Course ID Number	41218213	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	橋本英樹 (医) Hideki Hashimoto (Medicine)	講師陣 Lecturers	橋本英樹、岩永俊博 (ヘルスプロモーション研究センター)、 岡田加奈子 (千葉大学)、戸津崎貴文 (みずほ銀行)
場所 Venue	医学部教育棟13階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室 SPH Lecture Room, 13th Floor, Faculty of Medicine Experimental Research Bldg., Hongo Campus	授業時間 Semester/Time	冬学期、水曜日、1-2限 (8:40-12:00) Winter, Wednesday

履修上の注意

「予防保健の実践と評価」「健康増進科学」「社会と健康」などと関連する。

授業内容

○授業の目的: 生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。
○授業の方法: 講義・ディスカッション
○教科書・参考書等:
Glanz K, et al. Health Behavior and Health Education; Theory, Research and Practice. 4th eds. John Wiley and Sons, 2008
畑 栄一, 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第2版 ; 他、適宜配布
○成績評価の方法: 出席ならびに講義中発言 (40%)・課題およびレポート (60%)

授業計画及び内容 (各回のテーマ)

11/29 1) 1限 Micro-meso level of behavioral theories I
11/29 2) 2限 Micro-meso level of behavioral theories II
12/ 6 3) 1限 Population level of behavioral theories I
12/ 6 4) 2限 Population level of behavioral theories II
12/13 5) 1限 Empowerment approach in community I (岩永)
12/13 6) 2限 Empowerment approach in community II (岩永)
12/20 7) 1限 Health marketing in workplace I (戸津崎)
12/20 8) 2限 Health marketing in workplace II (戸津崎)
1/10 休講 (SPH課題発表会)
1/17 9) 1限 Health education at school: Case method I (岡田)
1/17 10) 2限 Health education at school II (岡田)
1/24 11) 1限 Health literacy and communication
1/24 12) 2限 Decision support and negotiation
1/31 13) 1限 Wrap-up and discussion
1/31 14) 2限 Written exam



Information, Technology, and Society in Asia 101

Introduction to Asian Studies: History and International Relations - Lectures 2012

科目番号 Course ID Number	4971010	使用言語 Language	英語 English
責任教員 Schools	松田康博(東文研) Yasuhiro Matsuda (Advanced Studies on Asia)	場 所 Venue	東洋文化研究所3階、大会議室 Meeting Room, 3rd floor, Institute for Advance Studies on Asia, Hongo Campus
キーワード Keywords	Asia, History, International Relations,	授業時間 Semester/Time	冬学期、火曜日、5限(16:40-18:10) Winter, Tuesday
履修上の注意 Important points concerning enrollment	Notes on Taking the Course: All ITASIA students are also required to concurrently enroll in ITASIA 102 (Seminar on Introduction to Asian Studies: History and International Relations). Students should complete the assigned reading before the respective lectures. Others: The course is held in the Main Conference Room (Dai kaigi-shitsu in Japanese), the Institute for Advanced Studies on Asia (Previously the Institute of Oriental Culture).		
授業内容 The contents of a lesson	Course Objectives: This course will offer students a series of lectures on Asian history and international relations by specialists at the University of Tokyo with the aim of providing a solid foundation in the central topics and most recent scholarship in Asian Studies. This course is required by both M.A.S. and Ph.D. students in the ITASIA program (non-ITASIA students are also invited) and it aims to expand students' knowledge beyond a few specialized countries or areas in Asia by providing a broader perspective of Asia as a whole through the study of history. Schedule: 1. Introduction 2. How to Understand History in "Asia" 3. Late Qing and Chinese Revolution 4. Pre-Modern Southeast Asia 5. South Asia during the Colonial Period 6. The formation of public sphere in Japan 7. The Republic of China 8. Japanese Expansionism 9. Korean Peninsula under Colonial Rule and Birth of Two Koreas 10. Modern South Asia 11. Modern Southeast Asia 12. International Relations during and after the Cold War 13. Comparative Politics in Asia: Democratization 14. Final Exam Teaching Methods: Lectures and assigned readings Method of Evaluation: Grades are based on attendance (30%), take-home exams (40%) and a final exam (30%). Required Textbook: Rhoads Murphy, A History of Asia, International Edition (New York:Pearson, 2008)		

文化・人間情報学特論 I

Special Seminars in Cultural and Human Information I

科目番号 Course ID Number	4917030	使用言語 Language	日本語 Japanese
責任教員 Schools	真鍋祐子(東洋文化研究所) Yuko Manabe (Advanced Studies on Asia)	キーワード Keywords	東アジア、ナショナリズム、グローバリズム、マイノリティ、在日
場 所 Venue	情報学環本館 7階第一演習室 Seminar Room#1, 7th floor, Interfaculty in Information Studies Bldg. Hongo Campus	授業時間 Semester/Time	冬学期、月曜日、3限(13:00-14:30) Winter, Monday
履修上の注意 Important points concerning enrollment	成績評価の方法:出席状況、レポート、討論への貢献度		
授業内容 The contents of a lesson	東アジア、ナショナリズム、グローバリズム、マイノリティ、在日 東アジアにおける戦争と植民地主義と分断の所産であり、かつ、現今のグローバリズムとナショナリズムの「ねじれ」を体現した存在として、今年度は「在日」に焦点をあてる。在日を含む複数の外部講師を迎え、講義を聞きながら、在日の現在と展望を見ずえるための新たな理論的枠組みを模索する。		

分野／特論 Field : Advanced Studies

単位／2 Credit : 2

日中関係 ～アジア経済～

Sino-Japanese Relations

科目番号 Course ID Number	29503-10(修士master) 29513-07(博士doctor)	使用言語 Language	講義は日本語で行うが、レポートは英語、中国語、日本語で提出してよい。
責任教員 Schools	丸川知雄(社会科学研究所) Tomoo Marukawa (ISS)	講師陣 Lecturers	末廣昭(社研)、田嶋俊雄(社研)、高原明生(法)、園田茂人(東文研)
場所 Venue	社会科学研究所1階第一会議室 Meeting Room#1, Institute of Social Science, Hongo Campus	キーワード Keywords	日中関係、日本、中国、外交、資源、投資、貿易、食料
授業時間 Semester/Time	夏学期、金曜日、2限(10:30-12:00) Summer, Friday	履修上の注意 Important points concerning enrollment	前提知識は不要である。 文系・理系を問わずあらゆる専門分野の院生が履修できる。
授業内容 The contents of a lesson	2012年には領土問題を巡って日中関係が大きく動揺した。2010年に中国と日本のGDPの規模が逆転したときから両国関係の基調が変化した。本講義では最新の情勢を踏まえながら中長期的な視点で日本と中国の関係を、政治外交関係、直接投資と貿易関係、食料・資源問題など、多角的に掘り下げて分析する。 ○授業の方法: 講義、討論 ○評価の方法: 出席と討議への参加、期末レポート ○講義資料のダウンロード先: http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/asnet/		

注意①：正規課程とプログラム履修の関係について

NOTE 1 : Standard curriculum and taking part in the program

本プログラムの修了は正規課程の修了とは独立に認定します。したがって、本プログラムにおいて「他研究科(教育部)履修」、「学部科目履修」として取得した単位を、所属する研究科・教育部が正規課程の単位としてどのように取り扱うかは、当該研究科・教育部が決定します。

Recognition of completion of the program is independent of that for completion of the standard curriculum. Therefore, decisions regarding treatment as credit of units gained in this program from "Other graduate school (educational department) enrolment" or "Undergraduate course enrolment" vis-a-vis the standard curriculum of the graduate school or faculty to which the student belongs shall be determined by that graduate school or faculty.

注意②：修士課程から博士課程に進学した時の扱い

NOTE 2 : Treatment of credits when moving from a master's to a doctoral program

修士課程または博士課程在学中に12単位を修得した場合だけでなく、東京大学の修士課程から博士課程へ進学した学生は、両課程を通して12単位を取得することで修了と認定されます。ただし、東京大学の学部において言語科目群に該当する単位を取得して、大学院に進学した場合においては、学部在籍中に取得した単位を本プログラムの単位とみなすことは出来ません。

For students who gained 12 credits during the term of a master's or doctoral program, or for students at the University of Tokyo who have moved from a master's to a doctoral program, recognition of completion shall be given for 12 credits gained during both courses. However, for students who gained credits for language-related courses at a University of Tokyo undergraduate faculty and moved on to the graduate level, the credits gained by such students while enrolled in that department may not be used as credits in this program.

注意③：平成18年度～20年度の「日本・アジア学講座」との関係

NOTE 3 : Regarding 2006 ~ 2008 Lectures on Japan-Asian Studies

平成18年度～20年度の期間に「日本・アジア学講座」として開講された科目のうち、作業委員会が特別に認めた場合には修了要件の単位とすることができます。

If the Managing Committee gives special permission, credits gained from those subjects taught during the Japan-Asian Studies Lectures held between 2006 and 2008 may be counted as credits.

言語科目群

Asian Language Courses

事前に必ず、履修に当たっての注意（履修者の制限など）を、ウェブサイトならびに UT-Mate 上で確認してください。
 どちらのキャンパス（本郷・駒場）の科目でも履修可能ですが、学部学生の履修状況によっては、受講できない場合もあります。

For detailed information in English, please visit the website.

<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

本郷キャンパス【文学部開講科目】

Hongo Campus (Faculty of Letters)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
中国語前期(1)	04136401	邵 迎建	夏	2	アラビア語(1)	04136442	吉田 京子	夏	2
中国語前期(2)	04136402	邵 迎建	冬	2	アラビア語(2)	04136443	吉田 京子	冬	2
中国語後期(1)	04136403	邵 迎建	夏	2	ペルシア語(1)	04136444	渡部 良子	夏	2
中国語後期(2)	04136404	邵 迎建	冬	2	ペルシア語(2)	04136445	渡部 良子	冬	2
韓国朝鮮語初級(2)	04136440	五十嵐 孔一	冬	2	チベット語(1)	04136452	星 泉	夏	2
韓国朝鮮語中級	04136441	五十嵐 孔一	夏	2	チベット語(2)	04136453	福田 洋一	冬	2

駒場キャンパス【教養学部開講科目】

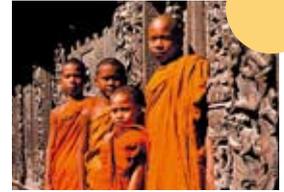
Komaba Campus (College of Arts and Sciences)

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
共通中国語(25)(文法)	08A4025	孫 軍悦	夏	2	共通中国語(45)(精読)(上級)	08A4045	孫 軍悦	夏	2
共通中国語(26)(文法)	08A4026	孫 軍悦	冬	2	共通中国語(46)(精読)(上級)	08A4046	孫 軍悦	冬	2
共通中国語(27)(作文)(初級)	08A4027	王 雪萍	夏	2	共通中国語(47)(精読)(上級)	08A4047	王 雪萍	夏	2
共通中国語(28)(作文)(初級)	08A4028	王 雪萍	冬	2	共通中国語(48)(精読)(上級)	08A4048	王 雪萍	冬	2
共通中国語(29)(作文)(中級)	08A4029	王 雪萍	夏	2	共通韓国朝鮮語(11)(文法)	08A8011	金 泰昊	夏	2
共通中国語(30)(作文)(中級)	08A4030	王 雪萍	冬	2	共通韓国朝鮮語(12)(文法)	08A8012	金 泰昊	冬	2
共通中国語(31)(作文)(中級)	08A4031	柴 森	夏	2	共通韓国朝鮮語(13)(作文)	08A8013	金 東漢	夏	2
共通中国語(31)(作文)(中級)	08A4031	柴 森	夏	2	共通韓国朝鮮語(14)(作文)	08A8014	金 東漢	冬	2
共通中国語(32)(作文)(中級)	08A4032	柴 森	冬	2	共通韓国朝鮮語(15)(会話)	08A8015	張 銀英	夏	2
共通中国語(32)(作文)(中級)	08A4032	柴 森	冬	2	共通韓国朝鮮語(16)(会話)	08A8016	張 銀英	冬	2
共通中国語(33)(作文)(上級)	08A4033	孫 軍悦	夏	2	共通韓国朝鮮語(17)(精読)	08A8017	橋本 繁	夏	2
共通中国語(34)(作文)(上級)	08A4034	孫 軍悦	冬	2	共通韓国朝鮮語(18)	08A8018	岩井 智彦	冬	2
共通中国語(35)(会話)(初級)	08A4035	張 佩茹	夏	2	共通韓国朝鮮語(19)	08A8019	金 東漢	夏	2
共通中国語(36)(会話)(初級)	08A4036	張 佩茹	冬	2	共通韓国朝鮮語(20)	08A8020	金 東漢	冬	2
共通中国語(37)(会話)(中級)	08A4037	林 立梅	夏	2	共通アラビア語(7)(初級)	08A9007	杉田 英明	夏	2
共通中国語(38)(会話)(中級)	08A4038	林 立梅	冬	2	共通アラビア語(8)	08A9008	杉田 英明	冬	2
共通中国語(39)(会話)(中級)	08A4039	姚 毅	夏	2	共通アラビア語(9)(中級)	08A9009	杉田 英明	夏	2
共通中国語(39)(会話)(中級)	08A4039	姚 毅	夏	2	共通アラビア語(10)	08A9010	杉田 英明	冬	2
共通中国語(40)(会話)(中級)	08A4040	姚 毅	冬	2	共通アラビア語(11)	08A9011	オダイムハンマド	夏	2
共通中国語(40)(会話)(中級)	08A4040	姚 毅	冬	2	共通アラビア語(12)	08A9012	オダイムハンマド	冬	2
共通中国語(41)(会話)(上級)	08A4041	王 雪萍	夏	2	共通ギリシア語(3)	08A9203	戸部 順一	夏	2
共通中国語(42)(会話)(中級)	08A4042	李 雲	冬	2	共通ギリシア語(4)	08A9204	戸部 順一	冬	2
共通中国語(43)(精読)(中級)	08A4043	刈間 文俊	夏	2	共通ラテン語(3)	08A9303	Hermann Gottschewski	夏	2
共通中国語(44)(精読)(中級)	08A4044	未定	冬	2	共通ラテン語(4)	08A9304	Hermann Gottschewski	冬	2

科目名	科目番号	担当教員	学期	単位	科目名	科目番号	担当教員	学期	単位
セルビア・クロアチア語(5)(初級)	08A9405	岡島 アルマ	夏	2	上海語(4)(初級)	08A9456	周 剛	冬	2
セルビア・クロアチア語(6)(初級)	08A9406	安江 レナータ	冬	2	台湾語(3)(初級)	08A9459	王 嵐	夏	2
セルビア・クロアチア語(7)(中級)	08A9407	山崎 信一	夏	2	台湾語(4)(初級)	08A9460	王 嵐	冬	2
セルビア・クロアチア語(8)(中級)	08A9408	山崎 信一	冬	2	タイ語(3)	08A9463	浅見 靖仁	夏	2
ポーランド語(5)(初級)	08A9413	西中村 浩	夏	2	タイ語(4)	08A9464	浅見 靖仁	冬	2
ポーランド語(6)(初級)	08A9414	西中村 浩	冬	2	モンゴル語(3)(初級)	08A9467	木村 理子	夏	2
ポーランド語(7)(中級)	08A9415	西中村 浩	夏	2	モンゴル語(4)(中級)	08A94681	城所 卓雄	夏	2
ポーランド語(8)(中級)	08A9416	西中村 浩	冬	2	モンゴル語(4)(初級)	08A9468	木村 理子	冬	2
ヒンディー語(5)(初級)	08A9421	藤井 毅	夏	2	ペルシャ語(3)	08A9471	前田 君江	夏	2
ヒンディー語(6)(初級)	08A9422	藤井 毅	冬	2	ペルシャ語(4)	08A9472	前田 君江	冬	2
ヒンディー語(7)(中級)	08A9423	藤井 毅	夏	2	ヘブライ語(3)	08A9475	上村 静	夏	2
ヒンディー語(8)(中級)	08A9424	藤井 毅	冬	2	ヘブライ語(4)	08A9476	上村 静	冬	2
ベトナム語(5)(初級)	08A9429	加藤 栄	夏	2	サンスクリット語(3)	08A9479	梶原 三恵子	夏	2
ベトナム語(6)(初級)	08A9430	加藤 栄	冬	2	サンスクリット語(4)	08A9480	梶原 三恵子	冬	2
ベトナム語(7)(中級)	08A9431	岩月 純一	夏	2	シリア語(4)	08A9484	高橋 英海	冬	2
ベトナム語(8)(中級)	08A9432	岩月 純一	冬	2	専門中国語(3)	08B4003	伊藤 徳也	夏	2
トルコ語(5)(初級)	08A9437	高松 洋一	夏	2	専門中国語(4)	08B4004	楊 凱栄	夏	2
トルコ語(6)(初級)	08A9438	高松 洋一	冬	2	専門中国語(5)	08B4005	楊 凱栄	冬	2
トルコ語(7)(中級)	08A9439	高松 洋一	夏	2	専門中国語(6)	08B4006	川島 真	冬	2
トルコ語(8)(中級)	08A9440	高松 洋一	冬	2	専門韓国朝鮮語(3)	08B8003	月脚 達彦	冬	2
広東語(3)(初級)	08A9443	谷垣 真理子	夏	2	専門韓国朝鮮語(4)	08B8004	木宮 正史	冬	2
広東語(4)(中級)	08A9444	吉川 雅之	冬	2	専門韓国朝鮮語(5)	08B8005	木宮 正史	夏	2
インドネシア語(5)(初級)	08A9449	高地 薫	夏	2	専門アラビア語(2)	08B9002	杉田 英明	冬	2
インドネシア語(6)(初級)	08A9450	高地 薫	冬	2	専門ギリシア語(2)	08B9202	筒井 賢治	夏	2
インドネシア語(7)(中級)	08A9451	高地 薫	夏	2	専門ギリシア語(3)	08B9203	筒井 賢治	冬	2
インドネシア語(8)(中級)	08A9452	高地 薫	冬	2	専門ラテン語(2)	08B9302	筒井 賢治	夏	2
上海語(3)(初級)	08A9455	周 剛	夏	2	専門ラテン語(3)	08B9303	筒井 賢治	冬	2



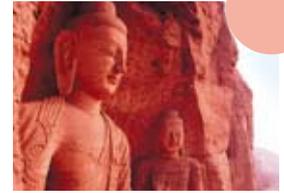
Human



Nature



History



Society



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク

- 学生のアジア理解を深める「日本・アジア学」教育プログラム(研究科等横断)
- ウェブサイト、メールマガジン、メーリングリストを通じた情報・意見交換
- 研究者の国際交流・分野間交流の促進

ASNETではアジアに関する情報を掲載したメールマガジンを発行しています。
どなたでも、無料で購読することができます。
ウェブサイトから購読登録をするか、事務局までメールで購読希望のメールをお寄せください。

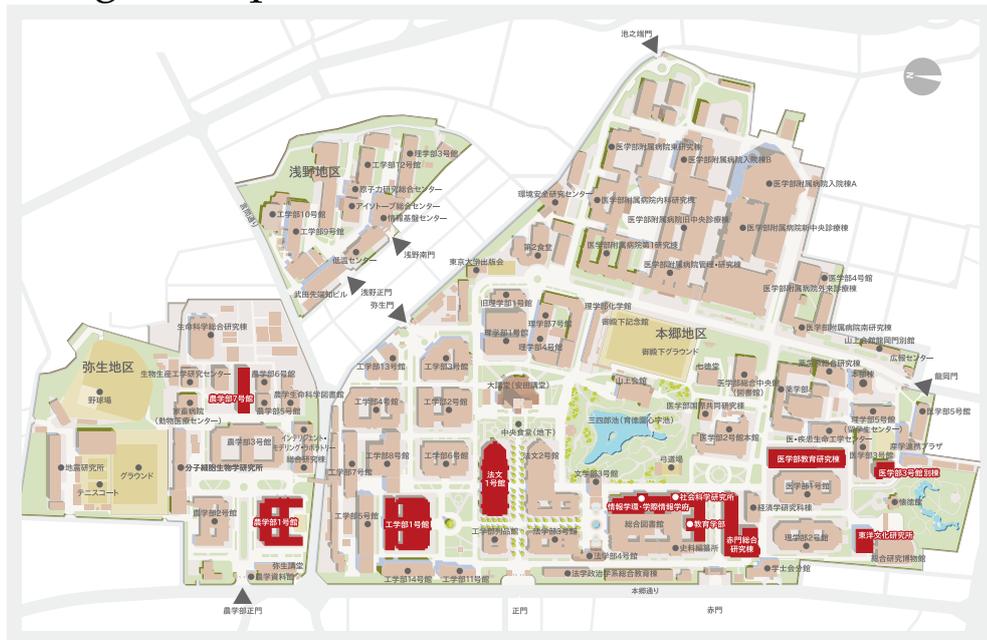
Network for Education and Research on Asia is a virtual network for the education/studies on Asia.
The network issues an e-newsletter for exchange of information on Asia. Subscription is free.
Please register at the website or contact the network office by e-mail for the subscription.

URL : <http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>

E-mail : edu@asnet.u-tokyo.ac.jp

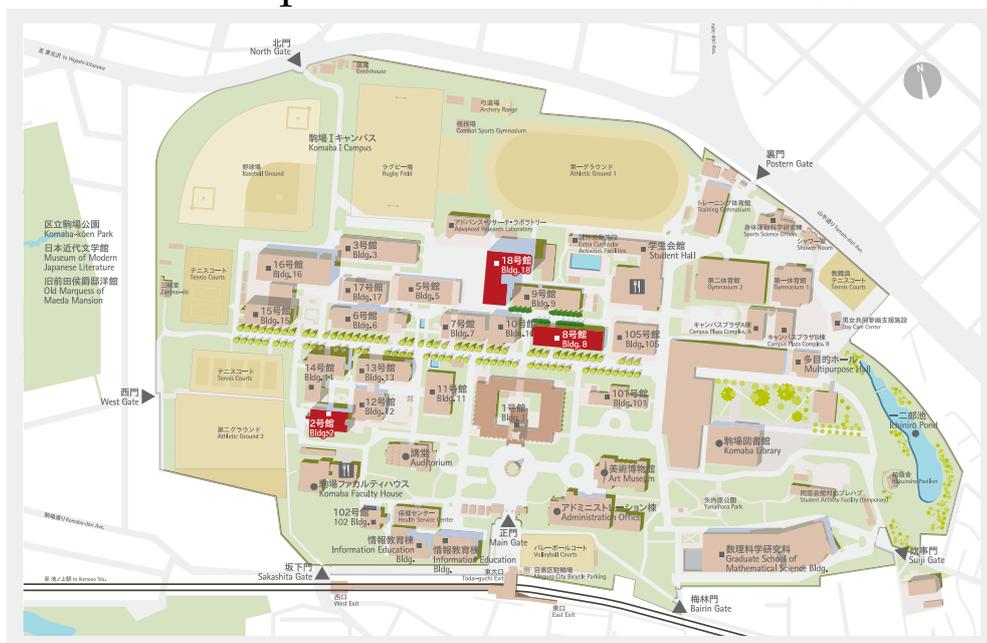
Hongo Campus

本郷キャンパス



Komaba Campus

駒場キャンパス



連絡先・お問い合わせ先

Contact and Inquiries

東京大学 日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

電 話 / Tel	03-5841-5868 (DI)
内 線 / Ext	25868
メ ー ル / E-mail	edu@asnet.u-tokyo.ac.jp
インターネット / URL	http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/